

# 島根県中山間地域における田園回帰状況 (地区別人口の現状と予測)

島根県立大学連携大学院	教授
島根県中山間地域研究センター	研究統括監
藤山 浩	
島根県中山間地域研究センター	客員研究員
森山 慶久	

対象地区：島根県中山間地域225地区

(小学校区・公民館区等の一次生活圏＝「郷」)

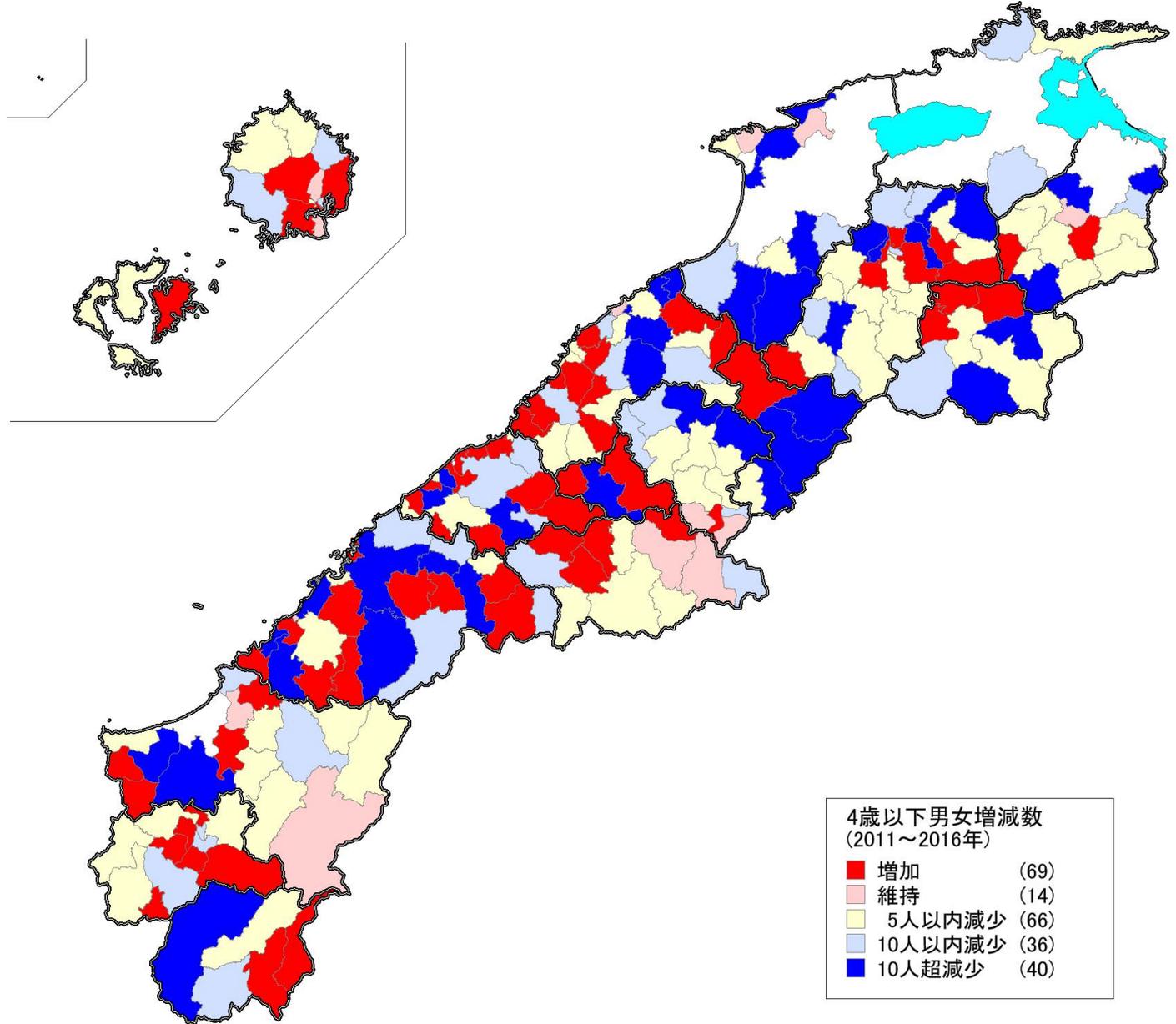
データ元：2011年、2016年住民基本台帳（両年4月末日時点）

平均地区データ：人口1,308人、高齢化率38.3%（全体）

小学生数60人（平均）

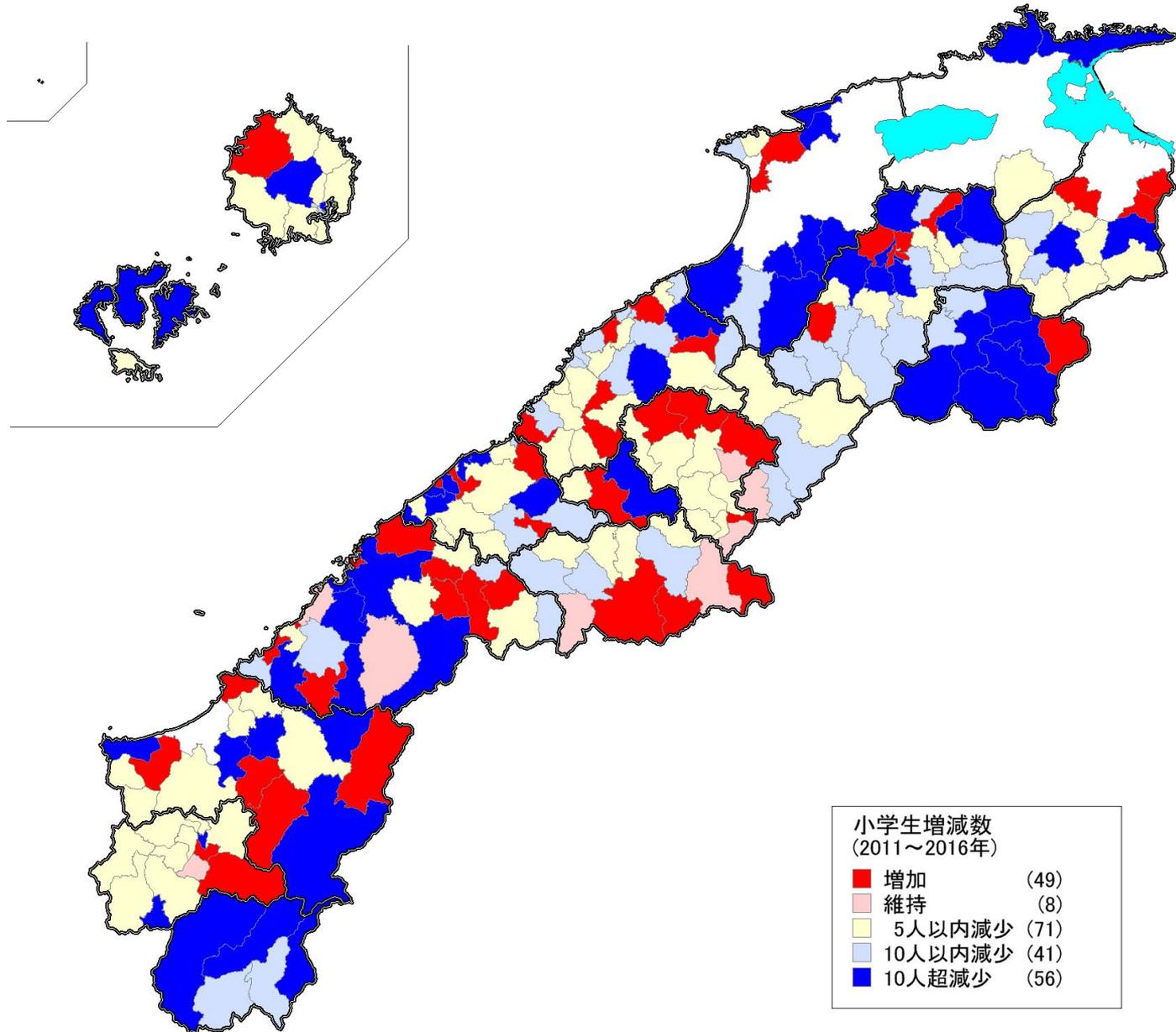
予測プログラム：「藤山&森山人口予測プログラムVer2.5.7」

# 4歳以下人口の増減数(2011~2016年)



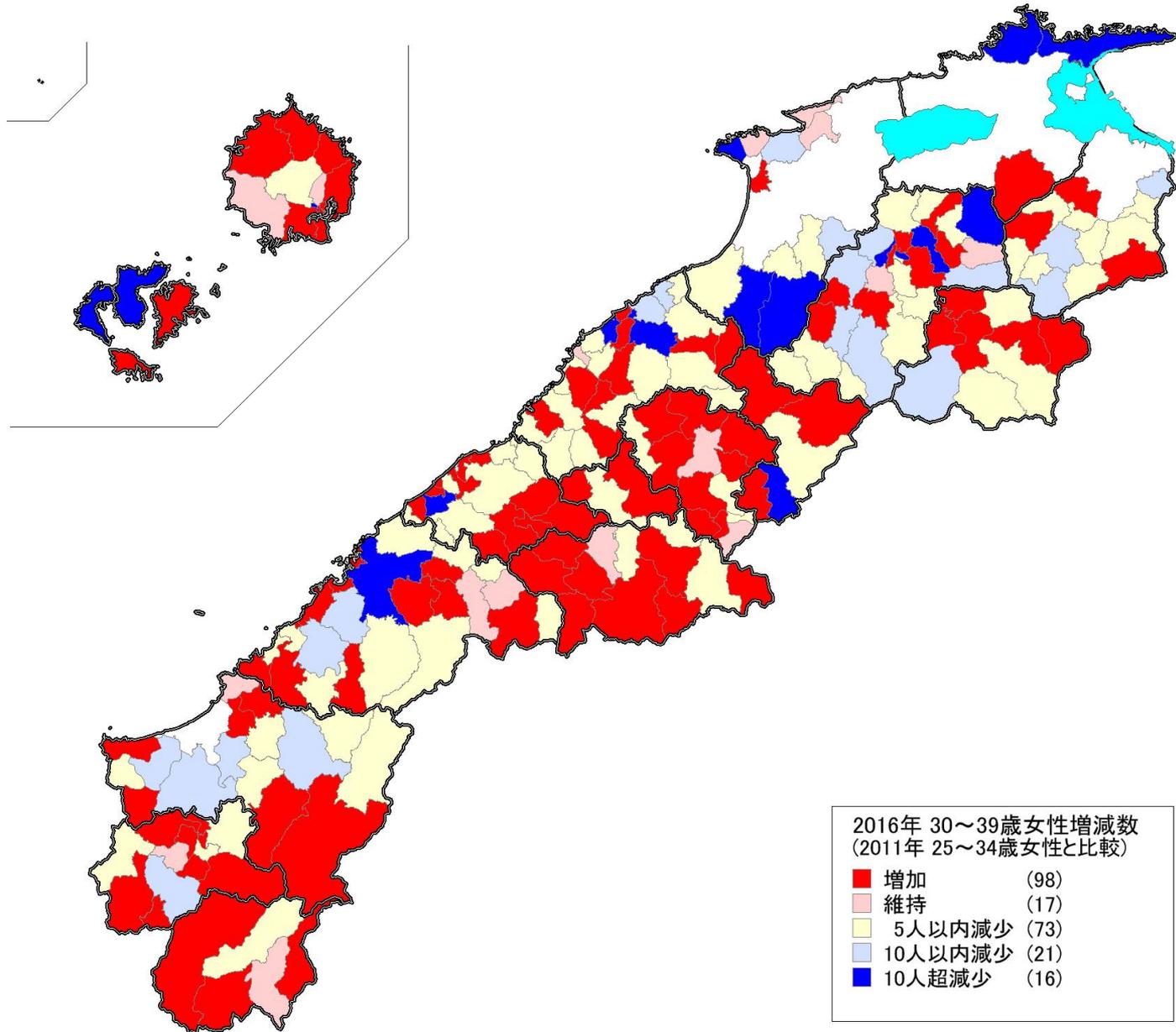
全体の3割以上(69地区、30.6%)で増加。目立つ山間部の健闘。

# 小学生増減数(2011~2016年)



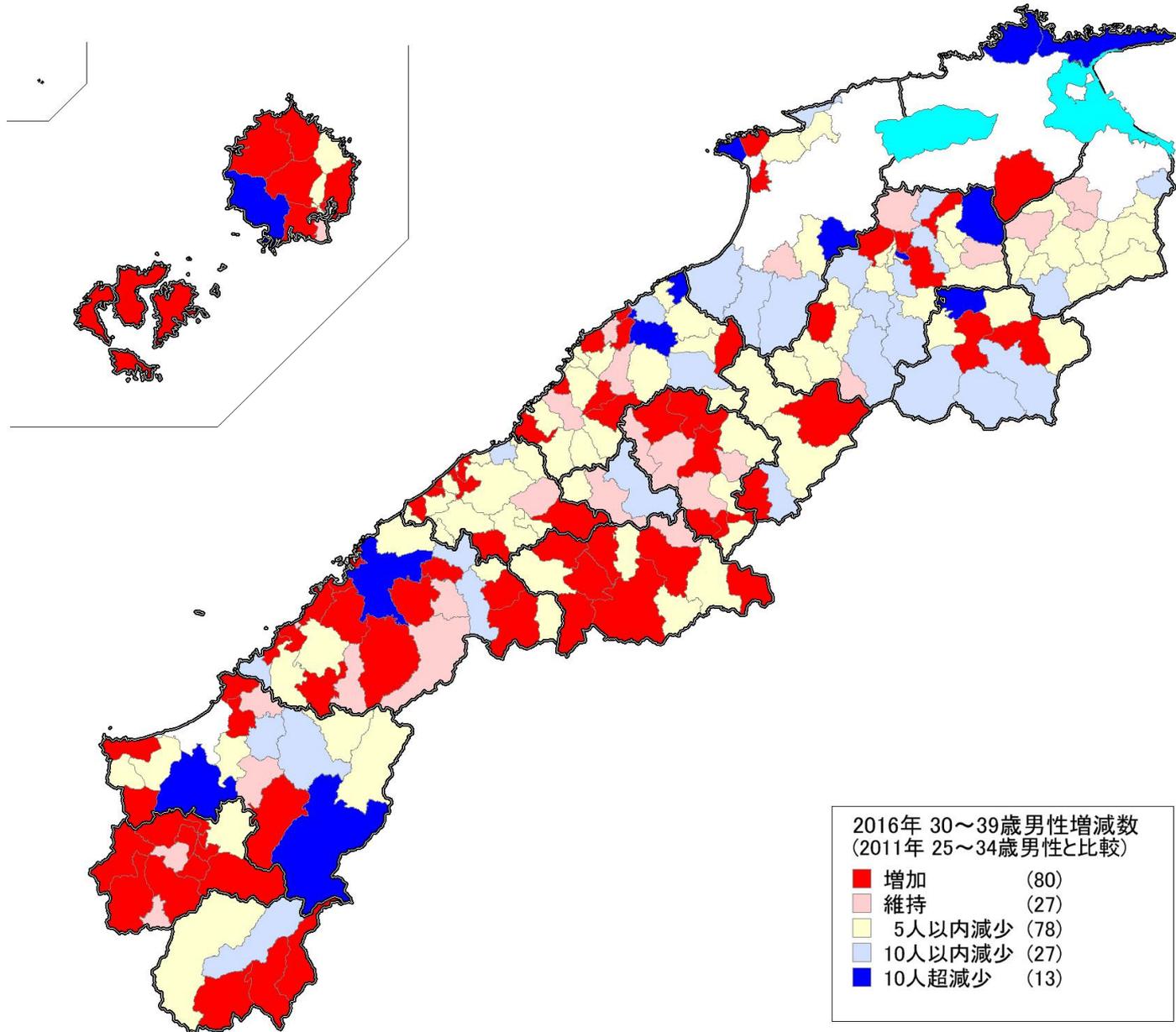
全体の2割以上(49地区、21.8%)で増加。目立つ山間部の健闘。

# 30代女性の増減数(2011~2016年)



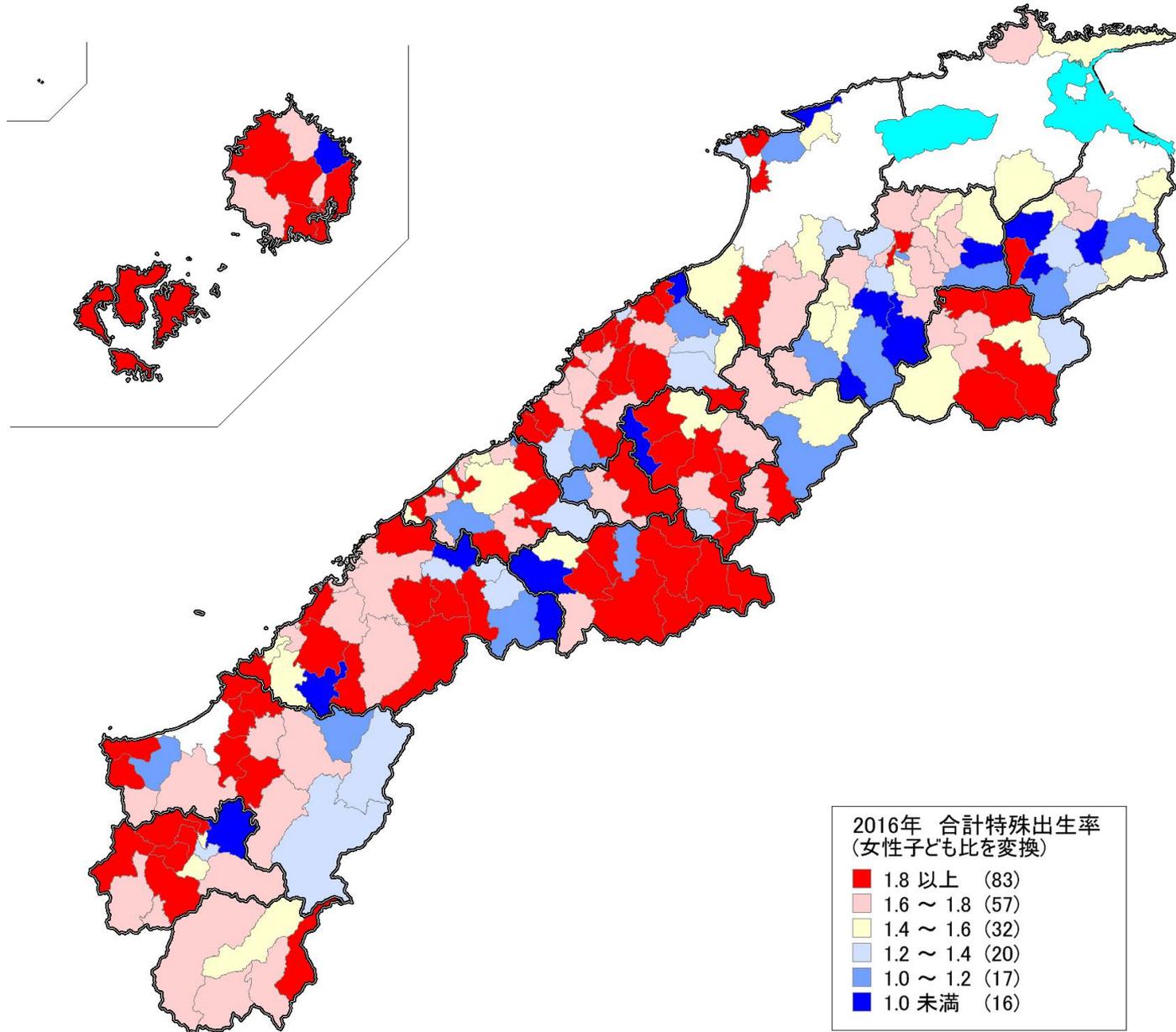
全体の4割以上(98地区、43.6%)で増加。目立つ山間部の健闘。

# 30代男性の増減数(2011~2016年)



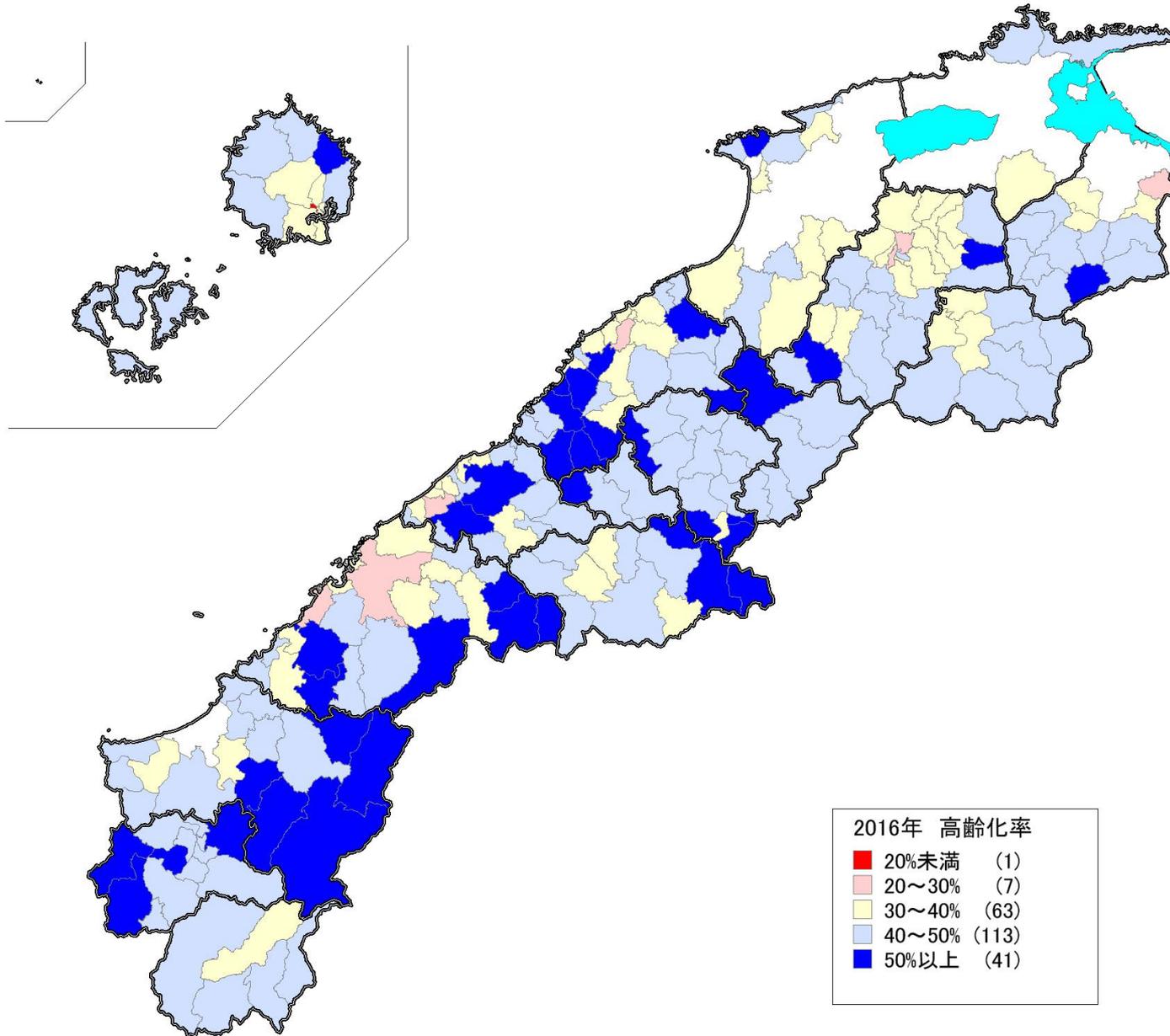
全体の3分の1以上(80地区、35.6%)で増加。同年代女性よりも増加地区は少ない。

# 合計特殊出生率 換算値(2016年女性子ども比より算出)



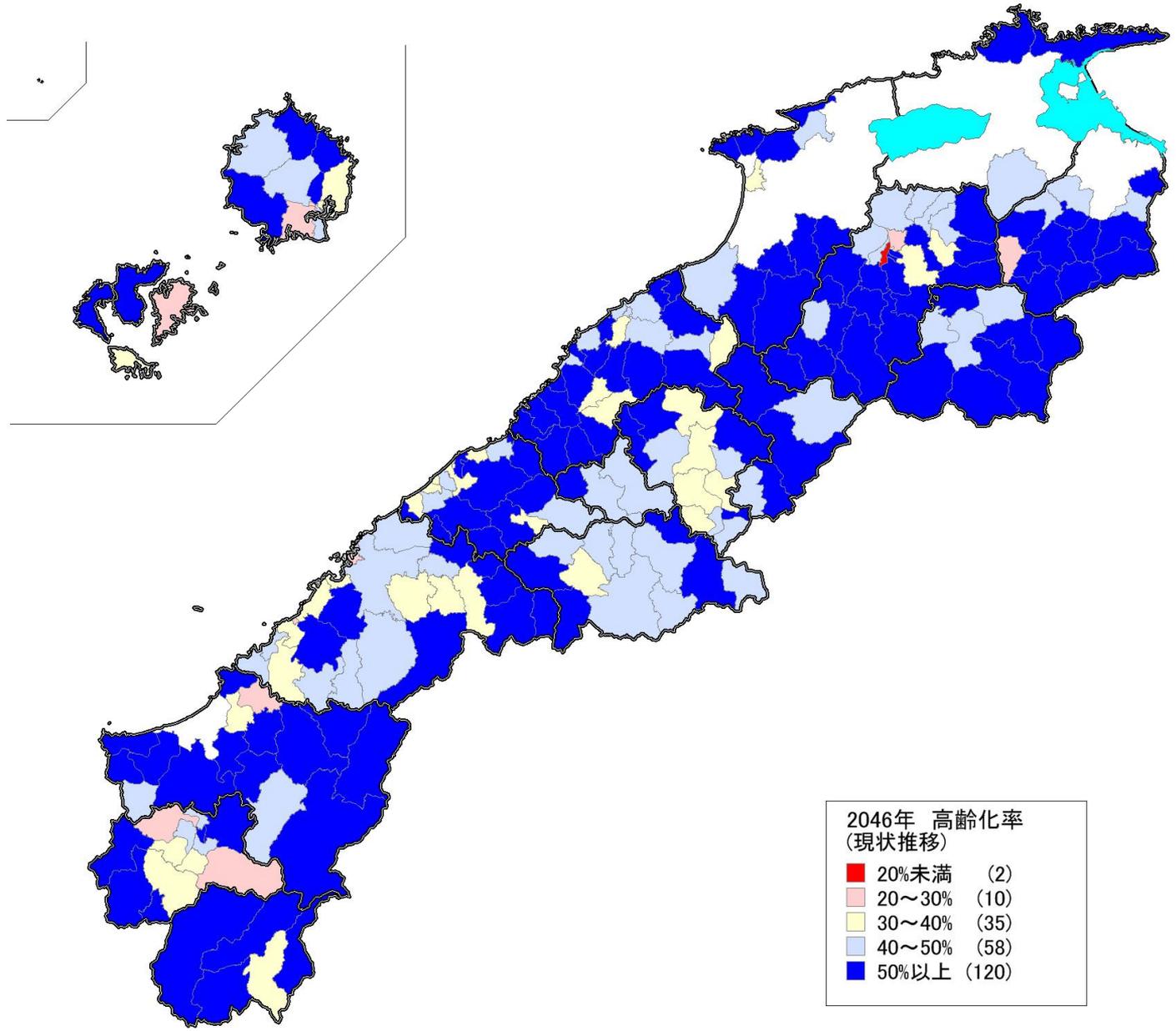
西部の石見エリア、島嶼の隠岐エリアで出生率の高い地区が目立つ

# 高齢化率(2016年)



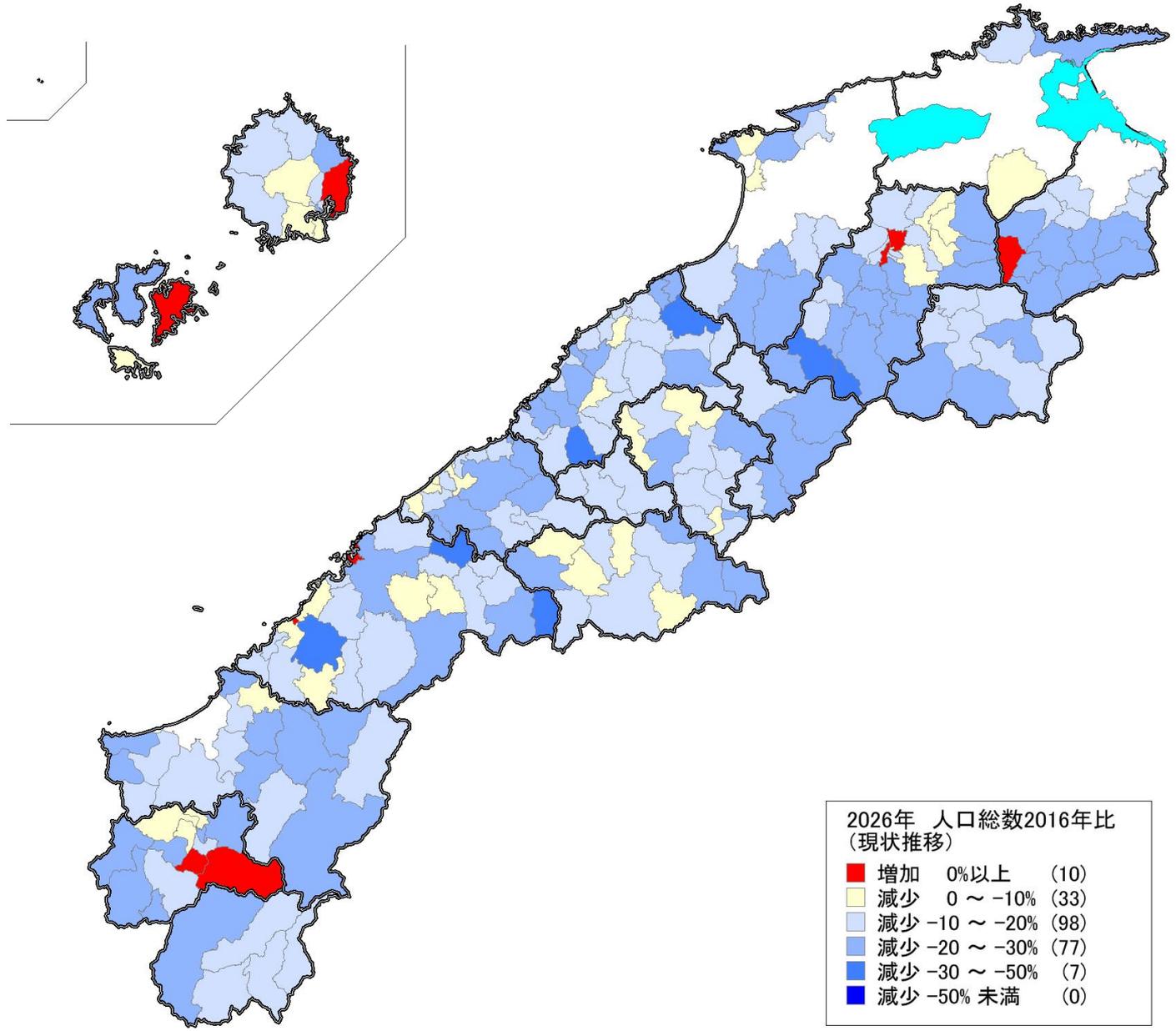
西部の石見エリア山間部で高齢化が進んだ地区が目立つ

# 高齢化率予測(2046年)



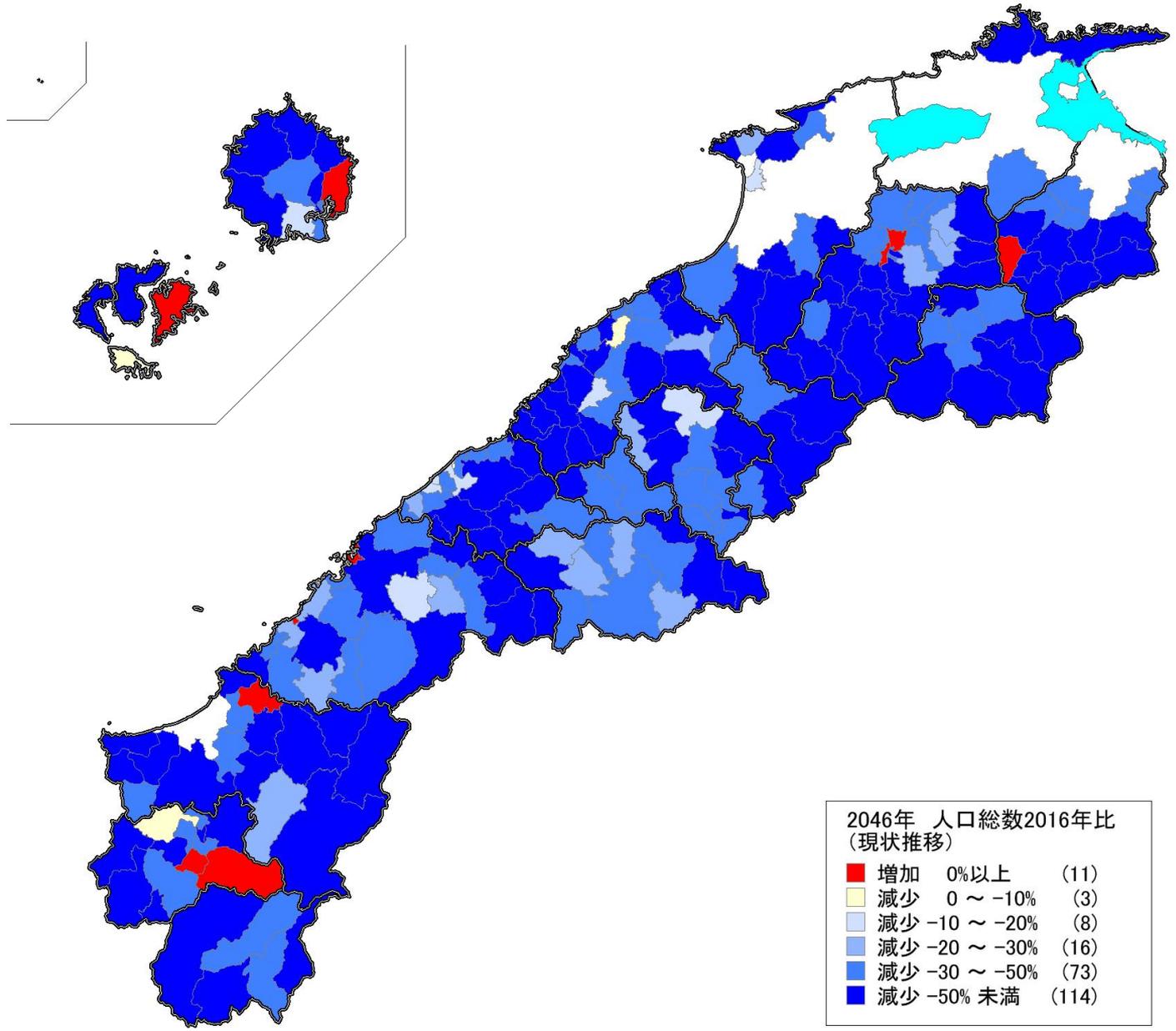
30年後は、県内中山間地域全域で、高齢化率が50%を超えた地区が半数以上に

# 人口増減率予測(2016~2026年) 今後10年間



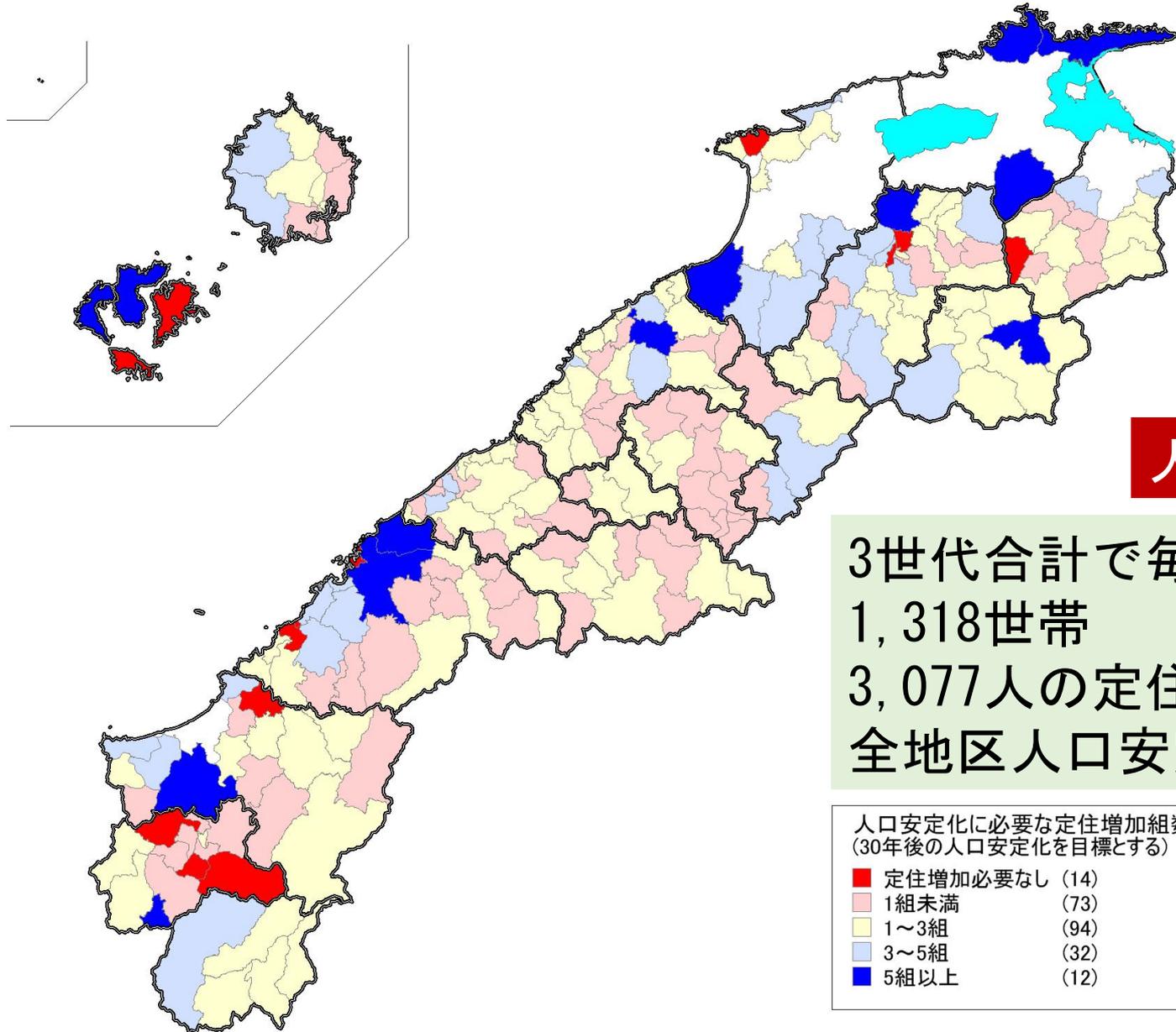
大半の地区で10%以上の人口減少が見込まれる。増加に転じた地区も存在する。

# 人口増減率予測(2016~2046年)今後30年間



過半の地区で人口半減が見込まれる。増加に転じた地区も存在する。

# 地区別の必要定住増加組数 (2011～2016年動態ベース、各年代ごと)



人口1.0%分

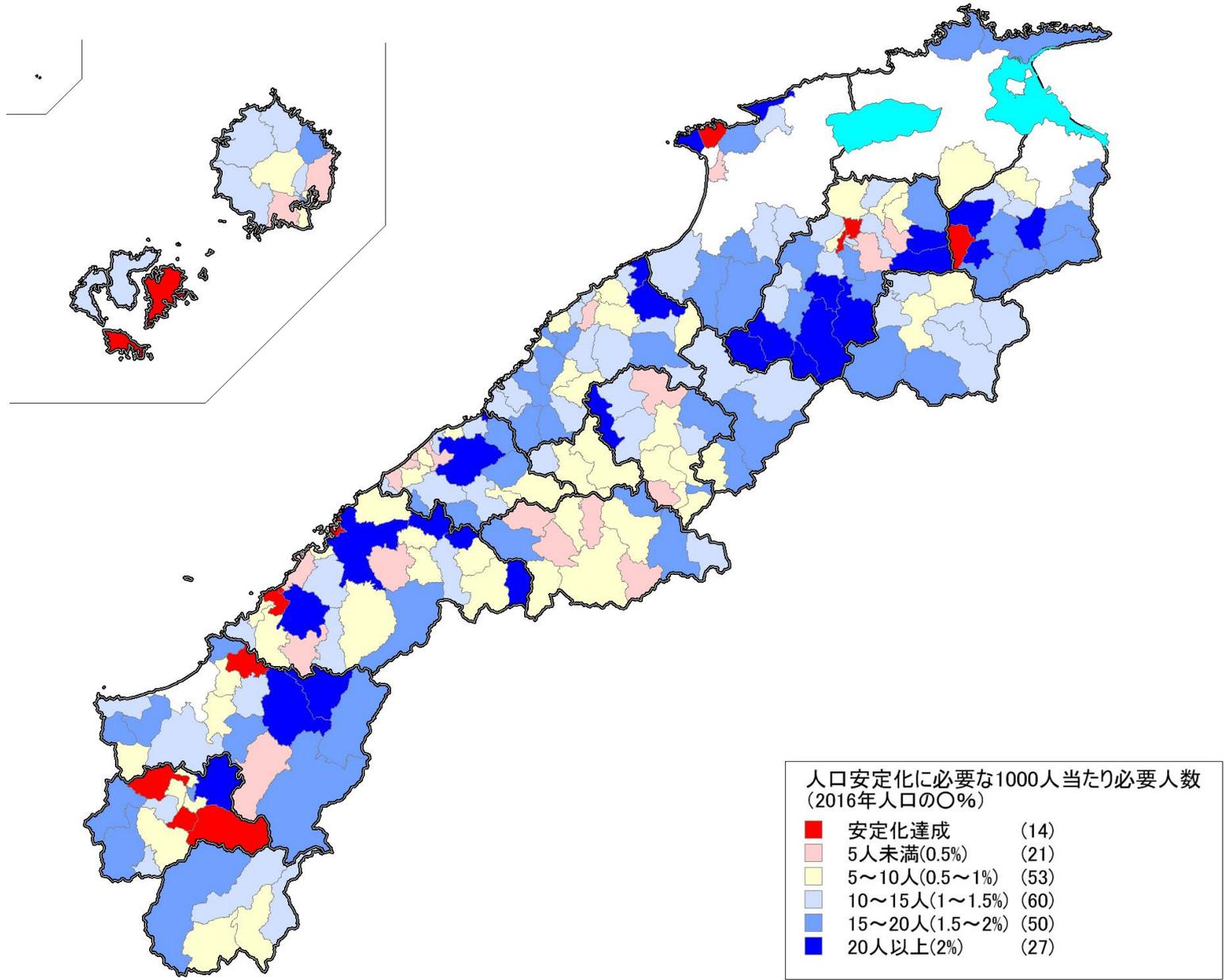
3世代合計で毎年  
1,318世帯  
3,077人の定住増加で  
全地区人口安定化達成へ

人口安定化に必要な定住増加組数  
(30年後の人口安定化を目標とする)

■ 定住増加必要なし	(14)
■ 1組未満	(73)
■ 1～3組	(94)
■ 3～5組	(32)
■ 5組以上	(12)

地区ごとに20代前半男女、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の必要組数を計算

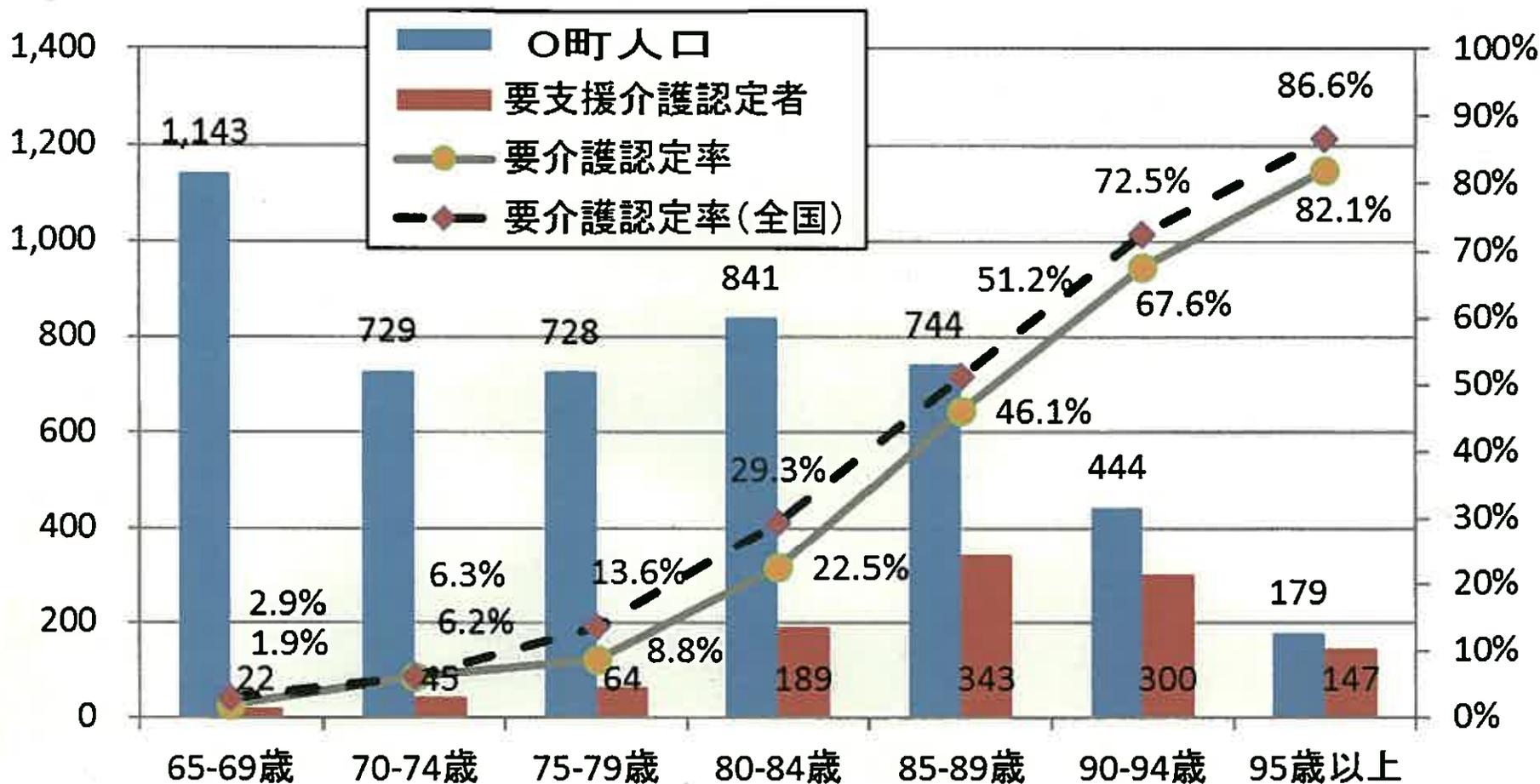
# 地区別の必要定住増加人数(人口1,000人当たり)



3分の2相当の148地区では、毎年人口1.5%未満の定住増加で人口安定化達成

# 参考資料 1

## 島根県〇町<11,205人>要介護等の認定状況例



全国平均より低い要介護認定率(多いお達者の方)

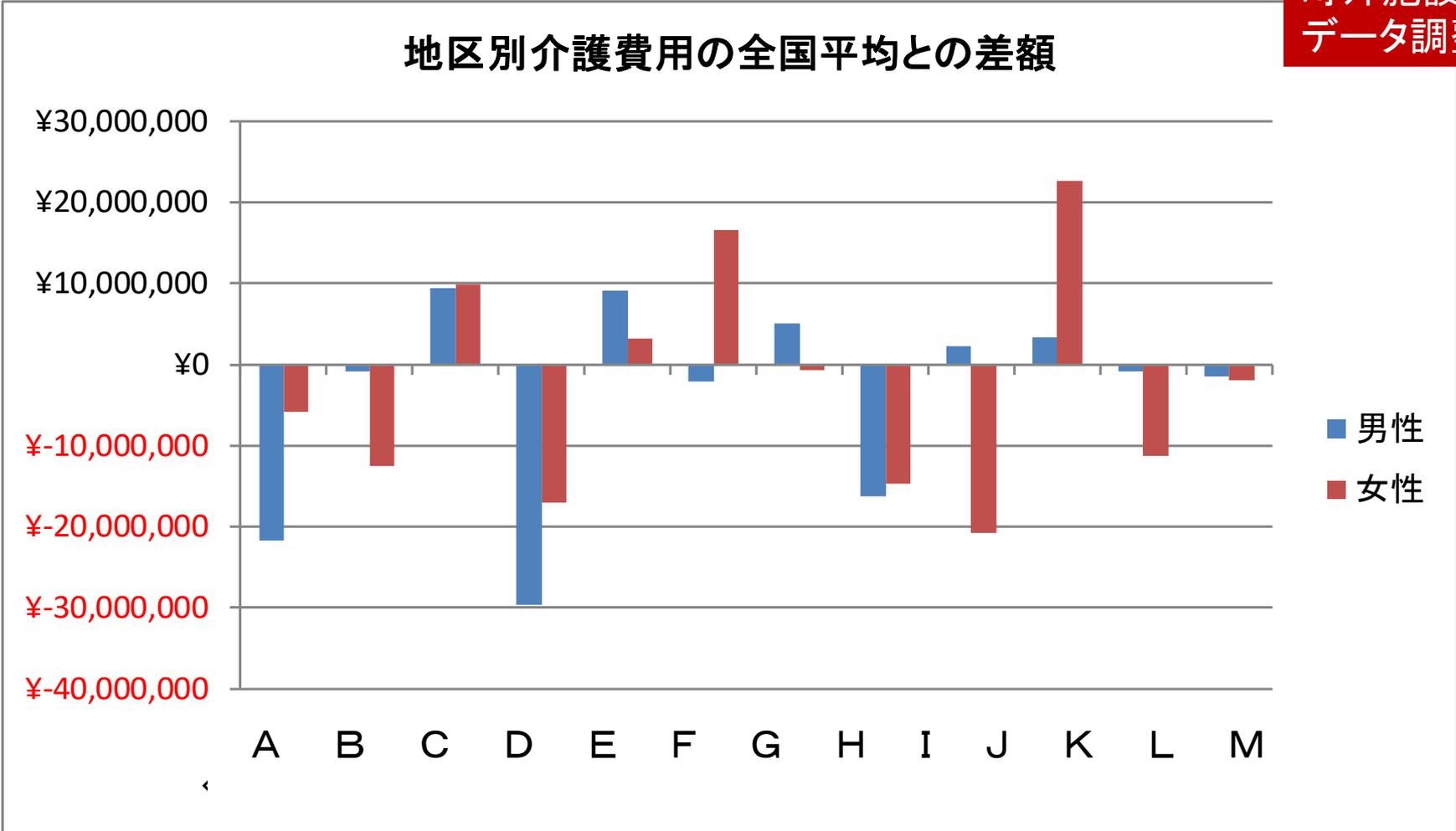
→年間で8,128万円の節減(全国では9,000億円分)

\* 〇町 における各段階の介護費用(全国平均より手厚い)を全国平均額で計算

→1億6,000万円超(全国では2兆円弱へ)

# 島根県〇町・地区別の介護費用の全国比較試算

町外施設者  
データ調整済



地区別で大きな差 → 手法の共有 & 相互学習  
→ 先行集団並みに改善 → 全体で極めて大きな効果